

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社 ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと(憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前に遊歩道があり地域住民の方々が常に散歩しており挨拶やコミュニケーションが図れる環境にある。地域住民の方々が火災、災害時にかけて頂ける協力体制もとれている。手芸教室やオカリナ演奏会、慰問などを受け入れ入居者が楽しめる様にしている。又、ヘルパー実習生、傾聴ボランティアの受け入れを行なっており認知症への理解について学べる様に指導している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600719&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600719&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市内の大きな幹線道路に面した住宅地にある2ユニットのグループホームです。建物は2階建てで、2階がグループホームになっています。周辺には公園や遊歩道、スーパーなどがあり、生活環境の面で優れています。家具店を改装した建物ですが、室内は段差もなく広く快適で、各所にソファや椅子が置かれ、壁には季節の装飾や利用者の写真、上品な絵や花の飾り物などがあり、親しみのある落ち着いた雰囲気を作っています。サービスの面では、利用者のアセスメントシートを職員が共有し、介護度が高い利用者の多い中で、きめ細かなサービス提供を行っています。また、運営推進会議の議事録の送付、医療情報記録の改善など、外部評価に対する着実な取り組みがなされています。遊歩道でのオータムフェスタへの参加や手芸や傾聴など、ボランティアの方々との交流も活発に行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づきユニットのケア理念を作り、管理者・職員は共有し合ってより良いケアを心がけ、地域の方との触れ合いを大切にしている	ホーム独自の運営理念とユニット毎のケア理念があり、いずれも地域との関わりを掲げ、地域密着型の理念として確立しています。理念は共用部分に掲示し、カンファレンスで共有化しており、理解されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社長・専務は町内会の役職にあり、町内会祭りの子ども神輿では休憩所として子ども達と交流を深めている。又今年はこちらの道感謝祭オータムフェスタに参加、ホーム前の出店・トイレの解放など事業所も参加。	法人の役員が町内会役員もしており、親密な関係にあります。ホーム前で行われている「オータムフェスタ」では出店もしています。手芸やオカリナ、傾聴など、ボランティアの方々がホームを訪れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各ボランティアやホームヘルパー2級の実習生の受け入れや講師などを務め、認知症の理解を深める努力をしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容など詳しく報告させていただいている。行政からはアドバイスをいただいている	会議は概ね2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センターの職員、町内会長、利用者家族などの参加を得て、地域交流や外部評価、実地指導などをテーマに意見交換しています。すべての家族に議事録を送っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や認定申請時などにサービス内容や疑問点などを相談し助言を頂いている	運営推進会議に市や地域包括支援センターの職員が参加するほか、グループホーム連絡協議会の場でも市と情報交換しています。困難事例や生活保護の対応も相談しています。SOSネットワークへの協力依頼には協力しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対しないという共通認識をスタッフ全員が持っており、拘束のないケアに取り組んでいる。今まで該当者なし	禁止の対象となる具体的な行為を記した「指針」を作成し、外部研修や内部の勉強会で理解を深めています。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りができます。また、人の出入りはセンサーで把握できます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し会議などで話し合っている。スピーチブロック、利用者置き去りの介護は虐待につながることも常々話している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学んでいるが、今まで該当する利用者なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書で説明しながら疑問や不安などには十分に答えて理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の意見や要望は真摯に受け止め会議や連絡帳で周知し共有し、改善したりプランにあげたりしている	家族の来訪時に詳しく意見を聞いています。ホーム独自のアンケートも検討しましたが、誰が記入したか分かって不都合という意見もあり、運営推進会議や面会時での意見収集を丁寧にする事で補っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議を通して意見や提案は吸い上げていると思うが、職員のストレス軽減、チームワークの強化のため話のできる機会も設けられると尚良いと思う	月1～2回の業務会議で、モニタリングやカンファレンスも行い、活発に意見交換しています。運営に関する各種の業務は職員に振り分けられています。職員の個別面談も必要に応じて行っていますが、定期的なものではありません。	必要に応じた面談のほか、全職員との定期的な個別面談も実施することで、幅広い意見の収集や、個別の目標設定を通じた職員の育成、サービスの向上などに役立てられることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修に積極的に参加することにより、個人のスキルアップにつながっている。又、介護職員処遇改善交付金を活用することで就業規則・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度は全員が研修に参加できるように配慮している。又、市内で夜間行われる研修には夜勤者・遅出以外親睦も兼ねて全員参加している。研修の情報を流し時間や興味があれば参加してもらい、自身のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水曜倶楽部に参加（1/月）アセスメントの仕方・考え方など学んでいる。他施設の見学なども進めている。又合同忘年会やGH連絡会の研修に参加しネットワークを広げサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートやご家族からの情報をもとに様子を見ながら声掛けを多くし、ご本人の不安や要望に応えながらスタッフ間で共有。信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や困っている事・要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス機関からのフェイスシートやご家族とご本人の話などから、一番必要なものは何かを見極めてサービスを開始している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという気持ちを忘れずに、どんな些細なことでも自分で出来る事は見守りの中で行っていたきながら、利用者がどんなことでも話せる雰囲気を作ろうと努力している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら本人と家族の関係を密にし絆を大切にしながら支えています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問、若い頃勤めていた工場や自宅訪問などで支援している	知人や友人の来訪もあり、ホームとして歓迎しています。知人に電話を掛ける際は支援しています。昔勤務していた工場や自宅周辺を見に行き、活動的になった方や、仏壇の菓子や花を職員と一緒に買いに行く方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方や言葉がうまく発せず会話が困難な方、うまく交われない方がおり会話の内容によりスタッフが仲介に入って楽しく過ごせる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族からの相談があった時には、助言をするなど支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何につまづいているのか、どう過ごしたいのかひとり一人の思いや意向を、スタッフ間で情報を集めそれを共有しプランに活かしている	思いを表現するのが難しい方が増えていますが、答え易い問いかけを心がけています。センター方式のアセスメントシートを作成し、会議で職員にコピーを配布し、理解を深めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集して把握しているが、利用者のほとんどがADLの低下や体調不良になりなかなか馴染みの暮らし方が難しい			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の状態、有する力を把握し、それぞれに合った対応をしている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の会議でセンター方式シートを基に、より良く暮らすための意見やアイデアを集め、ご家族にも臨むことを訪ね介護計画を作成している	毎月のモニタリングをもとに、3～4ヵ月の期間で介護計画を見直し作成しています。作成時には、事前に家族の意見を聞き、次の計画に反映しています。ケアプランを参照しながら日々の記録を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、言葉、表情など個別に記録し実践する中で気づき、スタッフ間で共有し話し合いながら介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度の方が多く受診対応が主になっている中で体調の良い時を見計らって、ドライブや散歩・ふるさと訪問など状況に応じて対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手芸教室や傾聴ボランティア・ヘルパー実習生の受け入れ等で、その時その時間を楽しんでいただけるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院困難な利用者は2/月の往診を、定期受診・緊急時の受診・入院受け入れ等医療との連携が出来ており、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による2週に1回の往診を受け、ホームの看護師も週4日ほど勤務し、健康チェックをしています。「医療情報記録」の用紙を新たに作り、看護師が中心に詳しく記録し、必要に応じて家族に報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤ではないが利用者の健康状態に応じ気軽に相談できる。専門的な細やかな対応や情報アドバイスはとでも役立っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や他利用者受診時情報を下さることもあるが、個人情報保護法の関係もあり詳細な情報やモニテラはご家族を通して一緒に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時終末期に何を望むかを確認しているが、重度化していく過程でDrと相談し必要に応じてご家族に同席していただいて説明を受けている。スタッフ間では、連絡帳や個人台帳に記載して共有している	利用開始時に、重度化・看取りに関する対応指針やホームの方針の説明を行っています。実際に重度化した場合は、同意書に署名捺印をいただくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、マニュアルがあり緊急時のバイタル測定・全身状態の観察・今何をすべきか把握している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、避難方法を全職員が身につけているか、地域との協力体制が万全なのかは不明	年2回の避難訓練があり、前々回は夜間想定で行っており、消防署や地域住民の方々との協力体制も築いています。災害時の備品の準備も適切にされています。一方、職員の救急救命訓練の受講は、職員によってばらつきがあります。	全職員が2～3年に1度程度、定期的に救急救命訓練が受講できるよう、職員の受講状況の把握と定期的な受講への取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関するマニュアルを作成し、個人情報の取り扱いに注意している。スタッフ間の会話にも注意しプライバシーの確保に努めている	利用者への呼びかけは「さん」づけとし、人格を尊重した声掛けを行っており、気づいたことがあれば、すぐ管理者が注意を促しています。個人ファイルは安全な場所で管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、自己決定できる様働きかけているが、依存性が高くて逆に混乱する人もいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の体調に留意し、本人のペースに合わせながら本人の希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪などは二つの業者に出張してもらい好きな方を利用していただいている。洋服などは色や素材を選んでいただき着用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化が進み一緒に台所に立つことはできないが、テーブルの自分の前を拭いていただくなどし、スタッフとともに食卓を囲み食事をしている	利用者と職員が会話しながら、一緒に食事しており、食材の買い物や下膳、後片付けに利用者が参加しています。ホームの畑で採れたきゅうりやトマトなどの野菜を提供し、季節感を演出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取ることが困難な方がおられ数口ずつ何回にも分けて摂っていただいたり、果物で補ったりしている。食事でも好き嫌いが激しかったりするので、その人その人に応じたやり方で支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後、自立している方は朝のみだったり朝夕とさまざまではあるが、本人の力に応じた口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助・ポーター介助・見守りなど個々に応じて支援しているが、おむつ使用を避けられない方も居られる	ユニットにより、トイレ誘導が必要な方が多く、アセスメントシート（日々の記録）でパターンを把握して、プライバシーに配慮しながら誘導しています。リハビリパンツなどの利用者も、出来る限りトイレ排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にてチェックし、2～3日で排便があるようスタッフ間で共有して、水分量の把握や調理についても食材を考えながら対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に利用者の希望やペースに合わせて入浴していただいている。曜日や時間帯も決めていない	毎日入浴することが可能で、週2回程度は入浴しており、中には毎日入浴する方もいます。入浴を拒む場合は無理強いせず、清拭などをこまめにして対応しています。安全のため2名による入浴介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に添って安心できる様説明をしたり、気分の良い状態で休んでいただけるよう体調に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時は連絡帳や薬の情報ファイルを見て確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合ったやり方でどんなことをするかを考え、ドライブや散歩や利用者がリビングに集まっているわずかな時間でも歌をうたったり談話やしりとり・ミニゲームなど行って気分転換を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に合わせて好天の時は金太郎池やアルデン・錦大沼・港・文化公園などに出掛けたり、と腕が難しい方はホーム前で日光浴をしたり木もれびの道を散歩したり、少しでも外へ出る事が出来る様支援している	日常的に近くの公園や遊歩道での散歩、外気浴を行っており、個別に服を買に行ったり、ラーメンを食べに行くなどの支援もしています。年間行事では、初詣や花見、盆踊り、オータムフェスタ、大型ショッピングセンターへの買い物などを行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの希望が少なく、またお金の所持管理が困難な方が多く受診時など支払っていただいていたが最近では出来なくなっている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話を掛けたりすることが出来ないまた難聴で会話が無理な方、応答は出来ても相手か誰なのか理解できない方も居られる			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が散歩時野の花を摘んできて飾ったり、季節ごとに花を活けたり絵画の掛け替えを行って季節感を感じていただけるよう工夫をしている	2ユニットが1フロアにあり、真ん中の事務所から、両ユニットに自由に行き来できます。室内には段差もなく、広く快適で、各所にソファや椅子が置かれています。壁には、季節の装飾や利用者の写真、上品な絵や花の飾り物などがあり、親しみのある落ち着いた雰囲気を作っています。温度や湿度、明るさも適切に保たれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車いすの方がほとんどで自走のままならず独りになる方はおらず、一緒になっても難聴などで会話が続かず、長時間車いすで過ごすのも困難なのが現状			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時使い慣れた家具や調度品を運んでいただいている。家族の写真などを見ても誰か分からなくなっている方も居られる	居室にはテレビやたんすなど、利用者が使っていた馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる場所となっています。壁にも家族の写真、手芸教室で作った作品、家族が作った飾り物など、自由に飾り付けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の生活パターンに合わせて自分で出来る事は見守り、混乱を防ぐためにトイレや居室入口に目印になるものを飾る工夫をしている			